

## 通水試験について

R7.1～

多気町では、G×形ダクトイル鉄管及び水道配水用ポリエチレン管路の通水（水圧）試験として原則、以下の方法にて行います。

### ●開発行為、給水装置設置申請（増径工事含む）、修繕等に伴う通水試験方法

- ①管路の水圧を1.00MPaに上昇させ、5分間放置する。
- ↓
- ②5分間放置後、水圧を1.00MPaまで再加圧する。
- ↓
- ③再加圧後、すぐに水圧を0.75MPaまで減圧し、そのまま放置する。
- ↓
- ④放置してから、15分後の水圧を確認する。（立ち合い確認）  
（0.63MPa（85％）以上あるか否かを確認する。）

### ●多気町発注工事に伴う通水試験方法

- ①管路の水圧を1.00MPaに上昇させ、10分間放置する。
- ↓
- ②10分間放置後、水圧を1.00MPaまで再加圧する。
- ↓
- ③再加圧後、すぐに水圧を0.75MPaまで減圧し、そのまま放置する。
- ↓
- ④放置してから、自記録検査（24時間）を行い、水圧を確認する。  
（0.60MPa（80％）以上あるか否かを確認する。）自記録グラフの提出

### 【水圧試験時の注意事項】

- ・この方法に示す通水試験は、最後のEF接合（EFソケット・EFベンド類・EFフランジ・EFキャップ）が終了してからクランプを外せる状態になったあとの放置時間を示す。

呼び径	50	75	100	150	200
放置時間(分)	20	30	45	60	

また、EFサドル類の場合は口径に関係なく30分以上経過してから行ってください。

なお、メカニカル継手による接合の場合は、接合完了後すぐに通水試験ができます。